

マンガ教材を用いた性意識・性行動の育成

— 自己・他者を深く理解するために —

向井 紋子 ・ 船橋 篤彦*

1. はじめに

これまで広島大学附属東雲中学校（以下本校）特別支援教育では、研究主題（平成30年～平成31年）『グローバル時代をきりひらく資質・能力』を育むための学びを豊かにする授業の創造、副題を「教科等の独自性を生かした東雲がめざす授業の方向性」のもと、グローバル時代をきりひらく資質・能力を、一人ひとりの将来における社会生活を見据えた力と捉え、「自分らしい進路を考える力」の育成をめざし、実践を重ねてきた。「進路を考える力」とは、卒業後や数年後の生活を見据え、それを言動で表出することであると考えている。そして、まわりの友だちや集団とかかわりながら、生徒がその子なりに考えや見通しをもって行動したり、表現したり、将来の社会生活をイメージしたりすることができるよう取り組みを進め、生徒が自分らしい願いをもち、将来の社会生活に主体的に参加していくことを目指している。生徒が自立と社会参加を目指すとき、「働く力」と同じくらい、「暮らす力」「楽しむ力」が必要である。「暮らす力」「楽しむ力」、つまり人として「生きる力・ライフキャリア」をつけなければならない。ライフキャリアが身につけていないと、例え労働者としての働く力が身につけていたとしても、労働環境内における人間関係等のつまづきにより、集団への所属が難しくなるケースが起こる。また、社会人として生きていく上では、基本的な生活習慣や清潔な身なり、コミュニケーション力などに加え、適切な性行動が重要となる近年、性意識や性行動については、価値観の多様性が増し、関連情報への接近可能性が飛躍的に高まっている。誤った性情報を鵜呑みにした社会的トラブルも後を絶たない現状がある。そのため、性のマナーや性の価値観を育むことは、喫緊の課題である。「適切な相手と適切に接することが必要」なのである。性のマナーや性の価値観を、適切な時期に身につけることは、とても重要なことである。

夢や憧れをもってなりたいたい自分に近づくため、人との関わりの中で豊かに暮らしてほしいと願い、本研究を進めている。

2. 研究の目的と方法

研究の目的は、特別支援教育における性教育の教材開発である。発達段階に個人差が大きい特別支援学級の生徒に対して、実践的で、生徒が主体的に学ぼうとする教材開発が必要である。本学級の生徒の性に関する心の発達や、生徒の持っている情報量（認知面）にはかなりの個人差がある。しかし、第二次性徴は確実にどの生徒にも表れ始めており、個人差を埋める教材開発の必要性を感じている。その学習の支援として、マンガを用いた実践を計画した。

本研究では、『ドラえもん』を教材の中心に据え、計画した。本学級の生徒にとって、『ドラえもん』は身近でよく知っているキャラクターである。登場人物同士の関係性もよく知っている。男性の心情の動き（のび太くん）と女性の心情の動き（しずかちゃん）を読み解きながら、適切な行動とはどんな行動かを考えさせたい。

3. 個人差を埋める性教育の授業

上記に示したように、本学級の生徒の性に関する実態は、心の発達や生徒の持っている情報量（認知面）にかなりの個人差がある。しかし、第二次性徴は確実にどの生徒にも現れ始めており、個人差を埋める教材開発の必要性を感じている。そこで着目したのが、『マンガの教材化』である。

* 広島大学大学院人間社会科学研究科

Ayako MUKAI, Atsuhiko FUNABASHI

Fostering sexual awareness and sexual behavior using manga as teaching materials

-To deeply understand oneself and others-

向井紋子・船橋篤彦(2020),「マンガ教材を用いた性意識・性行動の育成—自己・他者を深く理解するために—」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第50集」, 43-47.

本学級の生徒は、好きなマンガが必ずしも一致している訳ではないが、余暇の時間にマンガを愛読している。人との望ましい関わり方を考えさせる教材として、第二性徴の特性が描かれたマンガを読み解くことを計画して、『ドラえもん』を扱うことにした。『ドラえもん』は、身近でよく知っているマンガであり、現在公開中の映画にも興味を持ち、鑑賞した生徒もいる。2020年12月に公開された映画は、結婚がテーマで、ドラえもんが登場する人物がともに青春時代を過ごし、大人になって結婚に至る物語である。そのため、生徒が登場人物と自分を重ね合わせて『成長』や『人生』を想像できると考えられる。感じ方や認知に差がみられる生徒と学習を進めるとき、マンガの持つストーリーやユーモアを大胆な誇張や省略を用いた表現によって強く訴えかけ、生徒はマンガの登場人物の経験を追体験しながら『適切な自分の行動』を考えることができると想定した研究である。

4. 授業の実際

3時間の計画で実施した。

単元名 中学生の体の変化、心の変化について考える。

指導目標

1. プライベートゾーンについて知る。
2. 中学生は、心身ともに大人に近づいている第二性徴期の時期であることを知る。

指導計画

		学習目標	マンガの教材化
1時	人間の成長と身体の変化	人間は、成長とともに身体が変化し、誰もが大人になっていくことを知る。	児童期と成人期ののび太くんとしずかちゃんのイラストを使用して学習する。
2時	プライベートゾーンについて知る	プライベートゾーンについて知り、他人との関わりの中で、プライベートゾーンはその人個人のものであり、適切な相手と適切に接することの大切さを学ぶ。	ドラえもん『男女いれかえ物語』を使用して学習する。
3時	人を好きになるという感情	人を好きになる感情は自然なことである。適切に伝えられることが大切であることを学ぶ。	ドラえもんの登場人物の関係性の変化から、人の気持ちの変化を学習する。

1 時間目 マングの教材化

小学生ののび太くんたちのイラスト、中学生になった生徒本人の写真、結婚式ののび太くんとしずかちゃんのイラスト、高校生や成人の有名な写真などを年代順に並べ、成長とともに身体（見た目）が変化し、誰もが大人になっていくことを学習する。

私たちの身体（からだ）の変化 名前（ ）

① 次の写真は、どの人と同じ時かな？ ② 自分は、今、どの人と同じかな？

写真 乳幼児期ののび太くん
写真 生徒本人ののび太くん
担任の写真

期	期	期	期	期	期
誕生～	歳～	歳～	歳～	歳～	歳～

- *①小学生ののび太くんたち ②フリーンの集合写真 ③藤井颯太さん ④芦田愛菜さん
 ⑤結婚式ののび太くんとしずかちゃん ⑥EXIT ⑦尾畠さん
 を使用して、授業プリントを作成した。

マンガの教材化に対する生徒の反応

小学生ののび太くんたちのイラストを見て『のび太たちは小5だから僕たちより左です』と発言したことから、そのほかの写真の並び替えについても、スムーズに年齢を予想し比べながら学習できた。また、結婚式ののび太くんとしずかちゃんのイラストでは『大人になっているので』という発言もあった。

2時間目 マンガの教材化

ドラえもん『男女いれかえ物語』を使用して学習する。のび太くんとしずかちゃんが体を入れ替えて生活する話である。最後の場面で、のび太くんの身体になったしずかちゃんが男の人の体になっていることに気づいて驚き、一方のび太くんは『見てもいいのかな・・・』と迷いながら、『まあ、お互い様だし、いいよね』と服を脱ごうとする。服を脱ぐ直前に、どこでもドアで駆けつけたしずかちゃんに止められる。というストーリーである。



しずかちゃんが服を脱いだシーン
 『しずかちゃんは何に驚いたのか?』
 を考える。*①しずかちゃん

のび太くんは服を脱ぐ前
 『何に気が付いたのか?』を
 考える。
 *②のび太くん

マンガを読む前にプライベートゾーン
 について、自分だけが見たり触ったり
 していいところを学習した。

①

は、何にびっくり
 したのでしょうか?

②

は、何に気が付いた
 ののでしょうか?

のび太の

は、(良い , 悪い)。

マンガの教材化に対する生徒の反応

自分に興味がない学習に対して集中できない男子がいるが、ドラえもんを好きなので、しっかりストーリーを追って読み、笑い声も上がったので、内容が理解もできていたことがわかった。しかし、のび太くんになったしずかちゃんの反応に対しては「しずかちゃんの体じゃなかったから」と書き、間違っていないが教師が期待する『男の人の体に変っていたから』の答えには至らなかった。この問いに対して、他の男子は恥ずかしさからか、「しずかちゃんの体が汚れていたから」など答えていた。一方で、女子は「男の人の体」というキーワードを発表できたので、次の質問の、しずかちゃんになったのび太くんの気づきは何かの問いには、全員が『女の人の体

向井紋子・船橋篤彦(2020),「マンガ教材を用いた性意識・性行動の育成—自己・他者を深く理解するために—」, 広島大学附属東雲中学校研究紀要「中学教育第50集」, 43-47.

になっていること』と答えられた。『異性の裸を見ることは恥ずかしいことである。』『プライベートゾーンは勝手に見たり見せたりはしてはいけない。』といった指導をしなくても、しずかちゃんとのび太くんの様子から、生徒自身で感じ取ることができた。

3時間目 マングの教材化

時間の経過とともに変わっていったドラえもんの登場人物たちの人間関係を考えることを通して、友情から恋愛感情へ変化するなど、第二次性徴の時期にはこれまでとは違った恋愛感情が芽生えることを学習した。

マンガの教材化に対する生徒の反応

授業では、♡のシールと⊗のシールを準備し、登場人物同士の関係性についてシールを貼り、考えた。男子は大人になったしずかちゃん→のび太くんの関係性にも⊗を貼っていた。女子はハートシールを貼っており、全体での確認の際、「でものび太としずかちゃんは結婚したよ。」の発言で、男子も気が付いたようである。授業後、全授業での振り返りの中で、『人の気持ちは変わっていくんだな、みんなそうなるっていくんだな』と書いていた。男子は『第二次性徴は体が変わることが分かった。』『プライベートゾーンを守ろうと思った。』『もっと体のことが知りたい』と書いていた。

5. 成果と課題

学習者にとって「楽しく、力のつく」授業を創造すること、すなわち興味・関心の喚起と学力の育成は、すべての教科に共通する授業の基本的な目標である。今回のマンガの教材化は一定の成果があった。生徒の好きなマンガを教材に使用したことで、全員が授業に興味をもって取り組めた。また、心情を想像したり、変化を感じ取ったりするとき、慣れ親しんだキャラクターを通して、生徒同士が同じ目線で考えることができ、個人差を埋めることができた。本学級では、女子の発言により、男子が気づくことができる場面が多かった。その際、男子は女子の発言を、ドラえもんの物語や登場人物を通して考えることで、早く理解することができたと思われる。また、女子にとっては、プライベートゾーンについて、『自分のプライベートゾーンを見られることは恥ずかしい。』等、自分の心情をしずかちゃんの言動を介することで、発言しやすかったのではないかと想像できる。感じ方や認知に差がみられる生徒と学習を進めるとき、マンガの持つストーリーやユーモアを大胆な誇張や省略を用いた表現によって強く訴えかけ、生徒はマンガの登場人物の経験を追体験しながら『適切な自分の行動』を考えることができた。このことからマンガの教材化の効果を感じている。

課題としては、指導計画の練り直しである。指導計画において、2時間目の『プライベートゾーンについて知る』と3時間目の『人を好きになるという感情』の順番を入れ替えてもよかったのではないかと考える。当初からこの順番については迷っていた。今回の指導計画になった経緯は、プライベートゾーンに対する本学級の生徒の意識の差を埋める教材の発掘が、大きなウエイトを占めていたからである。生徒に自分たちが第二次性徴期に入ってきていることをしっかりと伝えたい思いがあり、その内容を優先して指導計画を立てて実施した。すべての授業の終わり、女子が「特別に好きになる人同士が結婚するんだ」「望まない結婚では、子どもは生まれないんだ」と発言した。「特別に好きになる人同士が結婚するんだ」については3時間目の学習内容である。「望まない結婚では、子どもは生まれないんだ」については2時間目の学習内容である。そのため、人の気持ちは変化することを学習してから、その科学的根拠を学習したほうが、より自分のこととして学習に臨めたのではないかと推察する。

もう一つの課題として、今回取り上げた登場人物の関係性以外のパターンへの汎化である。女子の発言に「特別に好きになる人同士が結婚するんだ」「望まない結婚では、子どもは生まれないんだ」とあった。本単元の指導目標である1. プライベートゾーンについて知る。2. 中学生は、心身ともに大人に近づいている時期であることを知る。については達成した。しかし、『性に関する価値観は個人差がある。』については、登場人物の価値観や心の変化に引っ張られている様子が伺える。

6. おわりに

今回、個人差を埋める性教育の方法として、マンガの教材化を研究したが、効果を実感している。幼いころから慣れ親しんできた登場人物という共通の教材を通して学習に取り組むことで、生徒の成長による個人差を埋めることができた。しかし、生徒の価値観が狭まらないように、生徒がマンガの世界に陶酔しすぎないように、実践にはさらなる工夫が必要であると考えている。学校生活全般のすべての教科を通して、生徒がそれぞれの価値観を見出し、豊かに暮らしと欲しいと願う。

次時の学習計画としては、①『生命の誕生』②『ジェンダーの視点を広げる』を考えている。①では、『自分がどう生まれてきたのか知る。愛情表現や性愛行動を適切に表現する方法を考える。』②では、『多様なセクシャリティに関して深く理解し、適切な人間関係を形成する。自己の体を愛おしみ、自分らしさを大切にする。』の学習を計画している。『性』を学習することを通して、生徒が自分自身をよく知り、自分自身を愛して欲しい。また、パートナーや仲間を深く理解しようとする意欲や姿勢を身につけ、性的・社会的関係について責任ある選択ができる知識・スキル・価値観を身につけて欲しい。

そのために、生徒が主体的に学習に取り組むことは不可欠である。学習していることを自分自身のこととして、どれだけ感じ取ることができるかを考えるとき、今回の研究テーマである、マンガ教材を用いて、その登場人物の経験を追体験しながら『適切な自分の行動』を考えることができる教材は、有効であると考えている。本研究の『マンガ教材』には、大きな可能性を感じたが、学習者にとって興味・関心の喚起と学力の育成のため、さらなる教材の発掘を研究し続けたい。

【 引用・参考文献 】

- 広島大学附属東雲小学校・東雲中学校：「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造—協働的問題解決ができる子どもの育成をめざして—, 東雲教育研究会実施要項, 2015.
- 広島大学附属東雲小学校・東雲中学校：「グローバル時代をきりひらく資質・能力」を培う教育の創造Ⅲ—学びを豊かにする授業の探究—, 東雲教育研究会実施要項, 2017.
- ロビー・H. ハリス：コウノトリがはこんだんじゃないよ！, 子どもの未来社, 2020.
- 藤子・F・不二雄：学年別ドラえもん名作選 ドラえもん 6年生, 小学館, 2019.
- 藤子・F・不二雄：のび太の結婚前夜 おばあちゃんの思い出, 小学館, 2020.
- 渡邊昭宏：教科の授業 de ライフキャリア教育, 明治図書, 2014.
- 渡邊昭宏：みんなのライフキャリア教育, 明治図書, 2013.
- 早稲田大学教育総合研究所：学校教育におけるマンガの可能性を探る, 学文社, 2018.
- 町田守弘：「サブカル×国語」で読解力を育む, 岩波書店, 2017.
- 宮口幸治：学校でできる性の問題行動へのケア, 東洋館出版社, 2019.
- 東京都教育委員会：性教育の手引き, 2020
- 浅井春夫：包括的性教育, 大月書店, 2020.